



東日本大震災から5年、「後方支援の集い」開催

3月12日、あえりあ遠野で「東日本大震災5年 後方支援の集い」が開催されました。震災から5年が経過した今、遠野市の官民一体で取り組んできた被災地支援活動は「遠野モデル」として全国に発信されています。

参加した約380人の市民は、あらためて後方支援活動の重要性と今後に生かすための後方支援のあり方を認識しました。

前遠野市婦人消防協力隊長の松田富子さんは誓いのことばで、「今も全国から支援の手が差し伸べられていることに心から感謝し、互いに助け、支え合うことをここに誓います。」と力強く述べられました。

基調講演は、東京学芸大学教育学部物理科学分野の織原義明専門研究員が、全国に影響を与えた「遠野モデル」を紹介しながら、防災における自治体や関係団体との水平連携の重要性について講演されました。

事例発表では、様々な分野で震災に携わった4名の方が当時の取り組み、交流、意思決定などの課題や重要性についてそれぞれの思いで発表され、発表者の思いは会場全体に伝わりました。



調布市との災害時相互応援協定を締結

東京都調布市と遠野市は、調布市の名誉市民である、故 水木しげるさんが遠野物語を漫画化したことなどの御縁をきっかけに交流を育んできました。

東日本大震災では多くの支援物資を提供していただき、ボランティア活動においても当市を拠点として活動を継続、両市の繋がりはより深くなり、協定を結ぶ運びとなりました。

この協定は、甚大な災害が発生した場合における物資や資機材の提供、職員の派遣、被災者の一時受け入れ、ホームページの代理掲載による災害時の情報発信などで被災市を支えることとなります。

市民の立会いの下で行われた締結は、両市の「縁が結ぶ絆」をより強くしました。